

第 2 章



本市の福祉をとりまく状況

1 本市の状況

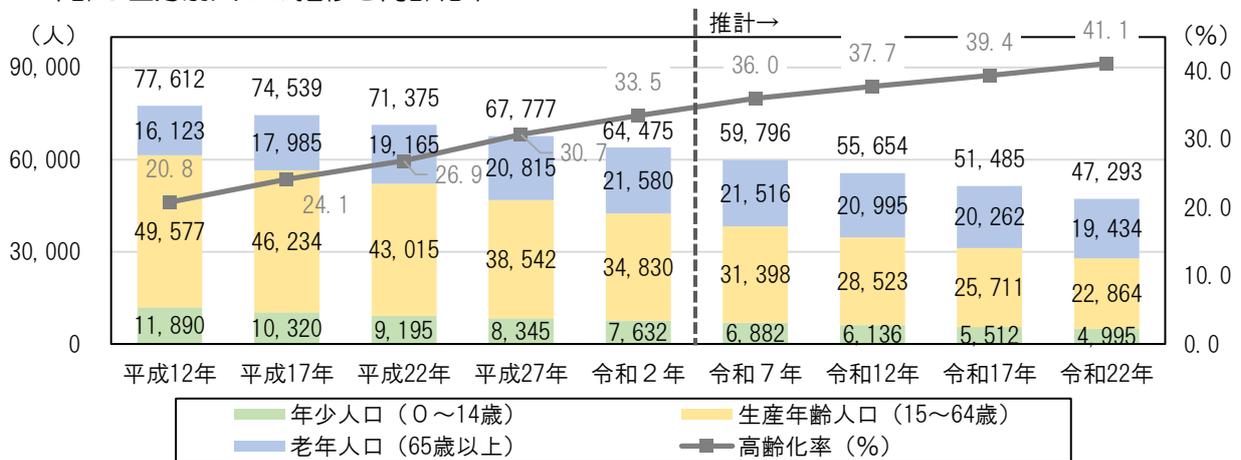
(1) 統計からみる現状

①人口等の状況

柳川市の総人口は、平成12年には77,612人、令和2年には64,475人と減少傾向となっています。また、「2040年問題」を迎える令和22年には47,293人まで減少することが見込まれています。

また、高齢化率をみると令和2年には33.5%と市民の約3人に1人が高齢者となっていますが、令和22年には41.1%まで上昇すると見込まれています。

■年齢3区分別人口の推移と高齢化率

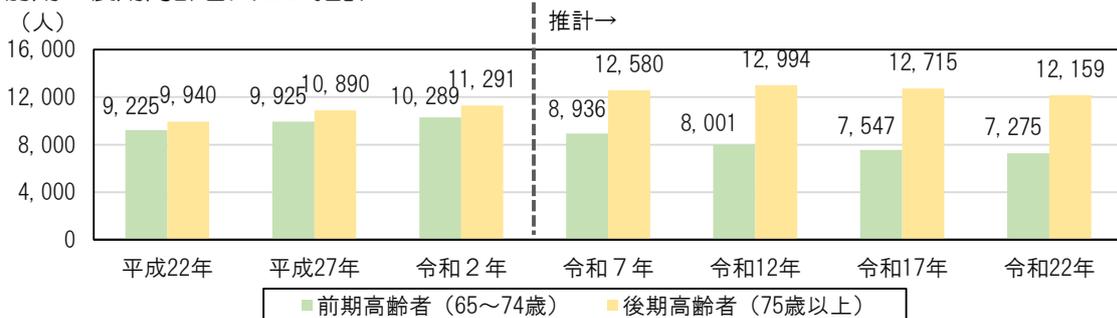


注：人口総数には年齢不詳者も含まれているため、年齢3区分の積み上げ人口には一致しない場合がある。
資料：実績値（令和2年まで）は国勢調査、推計値（令和7年以降）は国立社会保障・人口問題研究所推計

②高齢者人口の状況

65歳以上の老年人口の内訳をみると、65~74歳の前期高齢者は令和2年の10,289人をピークに減少し、令和12年には8,001人と22%減少するのに対し、75歳以上の後期高齢者は令和2年の11,291人から令和12年には12,994人と15%の増加となっています。

■前期・後期高齢者人口の推計



資料：実績値（令和2年まで）は国勢調査、推計値（令和7年以降）は国立社会保障・人口問題研究所推計

③世帯の状況

過去10年間の高齢者ひとり暮らし世帯数と高齢者夫婦のみ世帯数の推移をみると、いずれも増加しており、総世帯数に占める割合も、10年間で前者は3.7ポイント、後者は4.3ポイント増加しています。一方、母子世帯・父子世帯数は、ほぼ横ばいとなっています。

■高齢者単身世帯などの推移

| 項目 | 平成 22 年 | | 平成 27 年 | | 令和 2 年 | |
|--------------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|
| | 世帯数 | 構成比 (%) | 世帯数 | 構成比 (%) | 世帯数 | 構成比 (%) |
| 総世帯数 | 23,289 | 100.0 | 23,398 | 100.0 | 24,114 | 100.0 |
| 高齢者ひとり暮らし世帯数 | 2,020 | 8.7 | 2,537 | 10.8 | 2,995 | 12.4 |
| 高齢者夫婦のみ世帯数 | 2,103 | 9.0 | 2,468 | 10.5 | 3,205 | 13.3 |
| 母子世帯数 | 410 | 1.8 | 406 | 1.7 | 397 | 1.6 |
| 父子世帯数 | 41 | 0.2 | 32 | 0.1 | 35 | 0.1 |

資料：国勢調査

④民生委員児童委員の状況

民生委員児童委員は、民生委員法に基づき、住民の中から選ばれ都道府県知事の推薦を受けて厚生労働大臣が委嘱します。任期は3年で、児童福祉法の規定により児童委員を兼務しています。民生委員児童委員の中には児童福祉問題を専門に担当する主任児童委員がいます。

主な職務は、以下のとおりです。

- ・住民の生活状態を把握し、要援護者の自立への相談・助言・援助を行うこと。
- ・要援護者が福祉サービスを適切に利用するために必要な情報提供、その他援助を行うこと。
- ・社会福祉事業者または社会福祉活動者と密接に連携し、その事業または活動を支援すること。
- ・福祉事務所やその他の関係行政機関の業務に協力すること。

柳川市では177人（定数）の民生委員児童委員（うち主任児童委員が20人）が活動しています。

⑤福祉委員の状況

福祉委員は、各行政区より選出され、社会福祉協議会が委嘱します。地域において高齢者、子育て中の親子、障がいのある人など、援助を必要とする本人や家族に対して、相談相手となるとともに、民生委員児童委員と連携を図りながら、福祉のまちづくりを進めていく地域福祉の推進役です。現在447人（令和4年3月末現在）の福祉委員が配置されています。

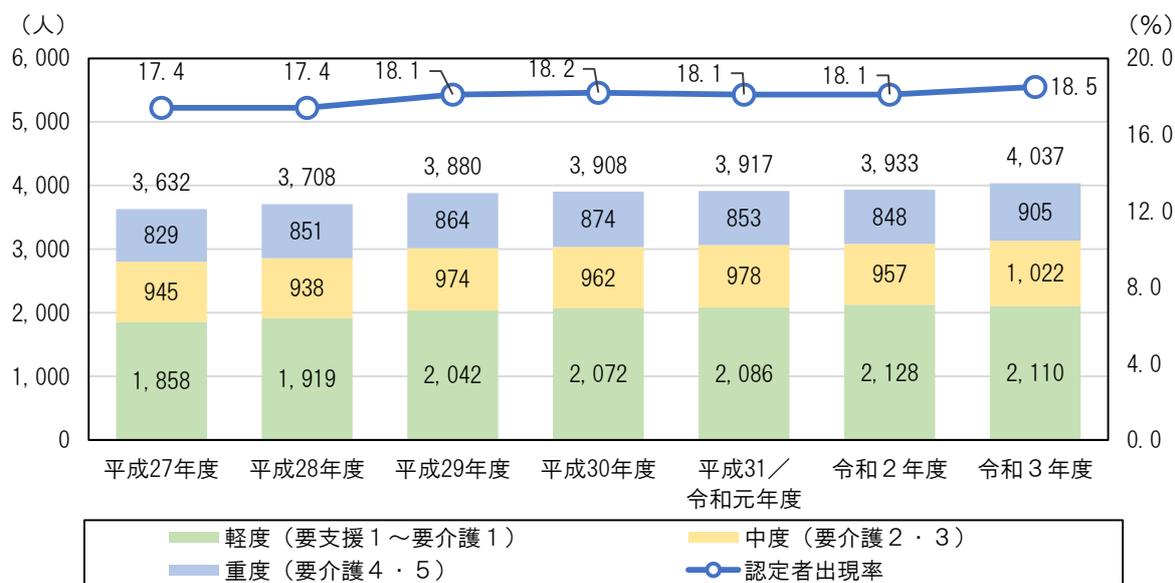
(2) 支援を必要とする住民の状況

①要介護(要支援)認定者の推移

本市の要介護(要支援)認定者は毎年増加しており、令和3年9月末時点では4,037人、認定者出現率は18.5%となっています。

また、要介護度別にみると、軽度(要支援1～要介護1)の増加と比べると中度(要介護2・3)、重度(要介護4・5)の増加は緩やかになっています。

■要介護(要支援)認定者数の推移

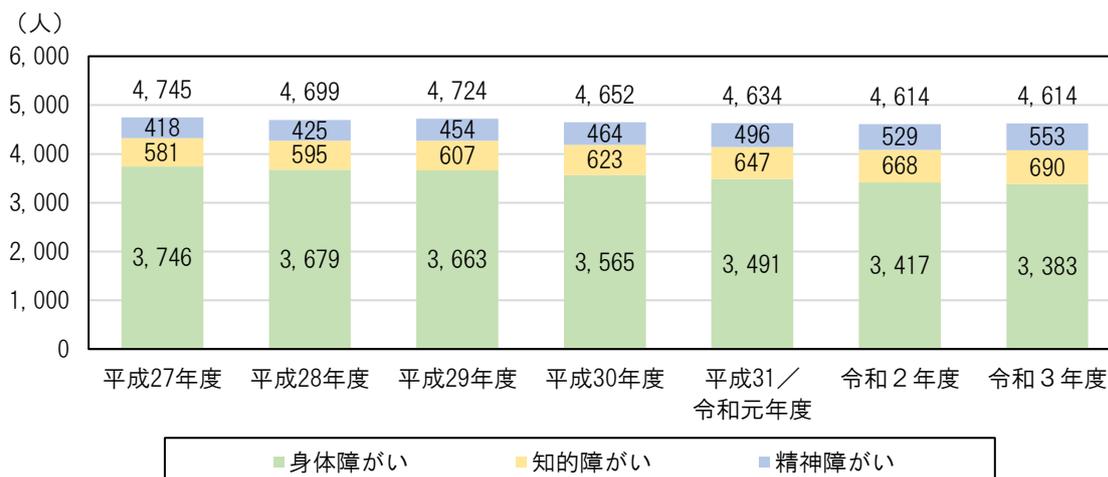


資料：福岡県介護保険広域連合

②障がいのある人の動向

障がい種類別の手帳所持者数をみると、身体障がい者は減少していますが、知的障がい者、精神障がい者は増加傾向にあります。

■障がい種類別手帳所持者数の推移



資料：柳川市福祉課(各年度3月末現在)

③児童扶養手当の動向

ひとり親家庭などの児童のための「児童扶養手当」の受給者数は、平成27年度の780人から減少して令和3年度には693人となっています。

■児童扶養手当受給者数の推移

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 受給者数（人） | 780 | 767 | 764 | 729 | 727 | 721 | 693 |

資料：柳川市子育て支援課（各年度3月末現在）

④生活保護受給世帯数・受給者数の動向

生活保護受給世帯数は平成27年度の703世帯から令和3年度には622世帯に減少しています。また、人員も平成27年度の976人から令和3年度には805人に減少しています。

■生活保護の被保護人員・世帯数の推移

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 世帯数（世帯） | 703 | 694 | 674 | 643 | 619 | 622 | 622 |
| 人員（人） | 976 | 941 | 896 | 851 | 808 | 803 | 805 |
| 保護率（％） | 1.42 | 1.39 | 1.34 | 1.28 | 1.23 | 1.24 | 1.25 |

注：保護率は、「被保護人員」÷「各年度3月末現在の住民基本台帳人口」×100で算出

資料：柳川市生活支援課（各年度3月末現在）

（3）各種相談の状況

①児童虐待相談件数の動向

児童虐待相談件数は、平成28年以降増加し続けており、令和3年には180件となっています。

■児童虐待相談件数の推移（子育て支援課への相談件数）

| | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 | 令和2年 | 令和3年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 相談件数（件） | 26 | 22 | 39 | 60 | 74 | 127 | 180 |

資料：柳川市子育て支援課（各年度3月末現在）

②DV相談件数の動向

DV相談件数は、年によって差があり、平成27年度は187件、令和2年度が最も多く227件、令和3年度には120件となっています。

■DV相談件数の推移

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 相談件数（件） | 187 | 151 | 127 | 71 | 48 | 227 | 120 |

資料：柳川市子育て支援課（各年度3月末現在）

2 各種調査結果

(1) 市民意識調査からみる現状

1. 調査の目的

市民の「福祉」に関する実感や意見を伺い、現状や課題の分析また施策検討における資料として活用することを目的に実施しました。

2. 調査概要

- ◇調査対象者：①市内にお住いの18歳以上の方2,000人（無作為抽出）
②子育て世帯の保護者 約608人（学童保育所を通じて配布）
 - ◇調査期間：令和3年11月15日（月）～12月3日（金）
 - ◇調査方法：①郵送配布・郵送回収による本人記入方式
②学童保育所を通じて保護者に配布（手渡し）、その後郵送にて回収
- ※回答については、郵送での回答と並行してWEBによる回答も受け付け

3. 回収結果

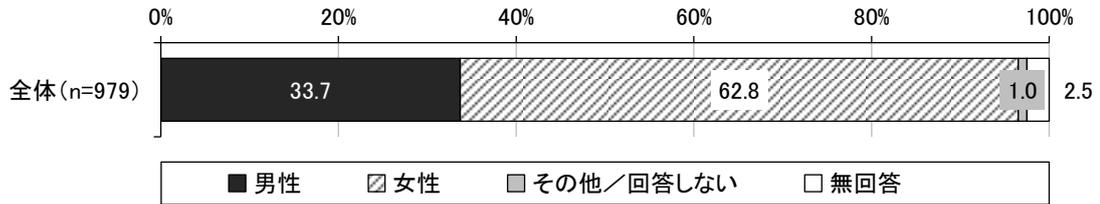
- ◇配布数：2,608件
- ◇有効回収数：979件（うち、郵送による回収874件、WEBによる回収105件）
- ◇有効回収率：37.5%

4. 調査結果の見方

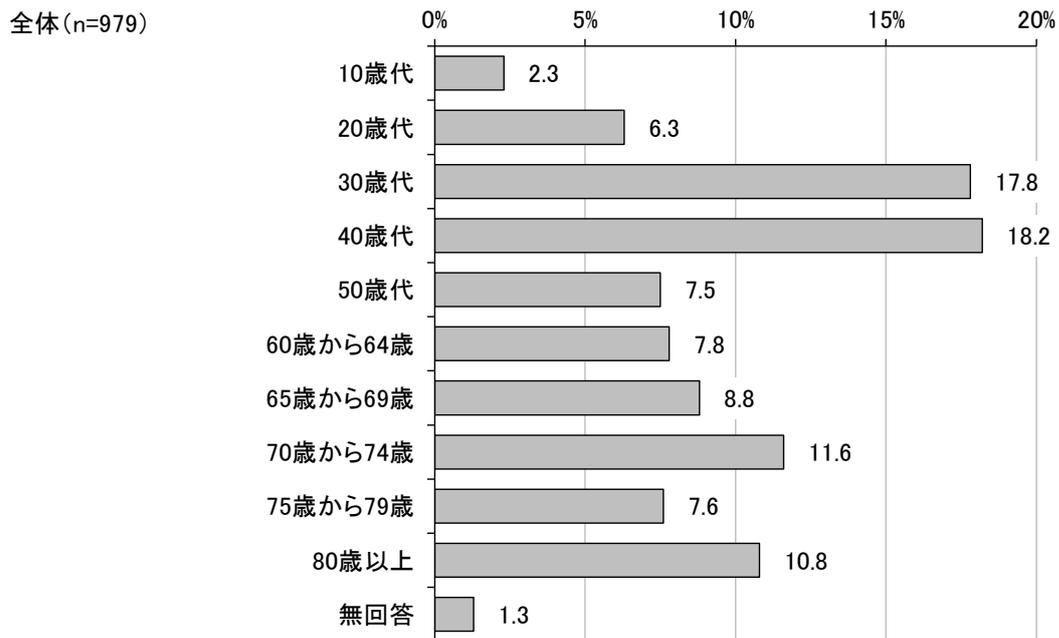
- 回答結果の割合「%」は、小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数の合計と全体の回答者総数は合致しません。
- 図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 表中の網掛けは、「無回答」を除き、最も割合の高い項目（※白文字）と、二番目、三番目に割合の高い項目を表しています。
- 複数回答のグラフは、上位5位（⑤のみ6位）までの結果を抜粋して掲載しています。

5. 調査結果

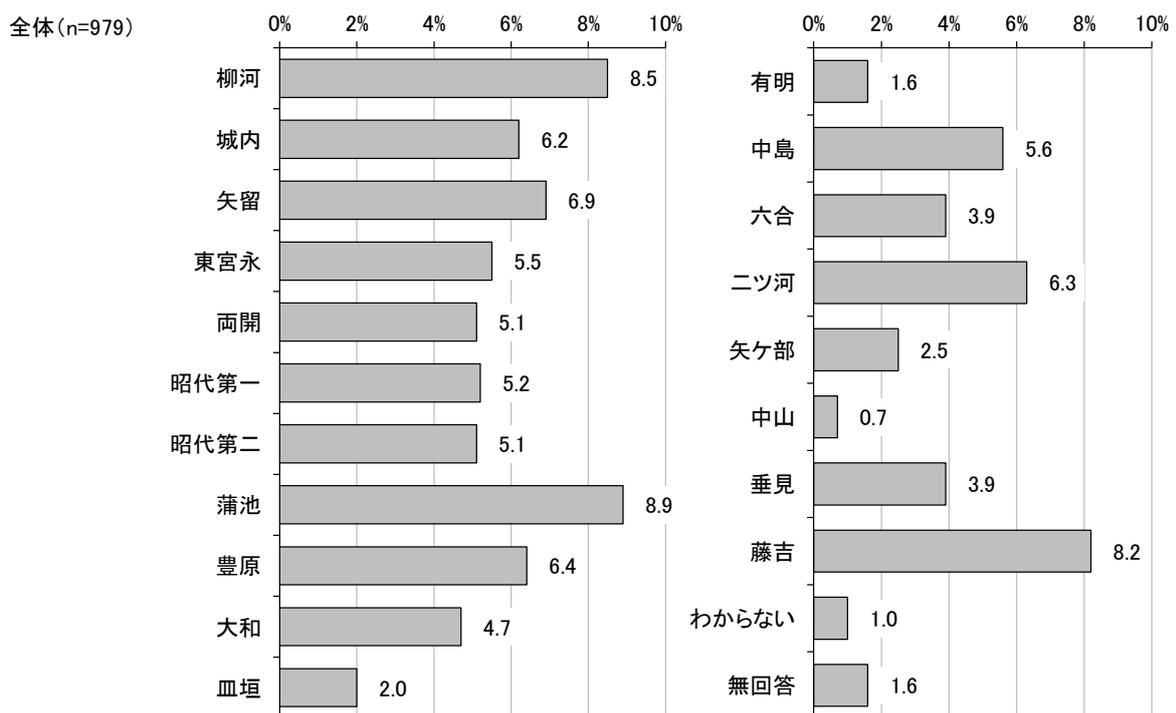
① 回答者の性別(説明略)



② 回答者の年代(説明略)



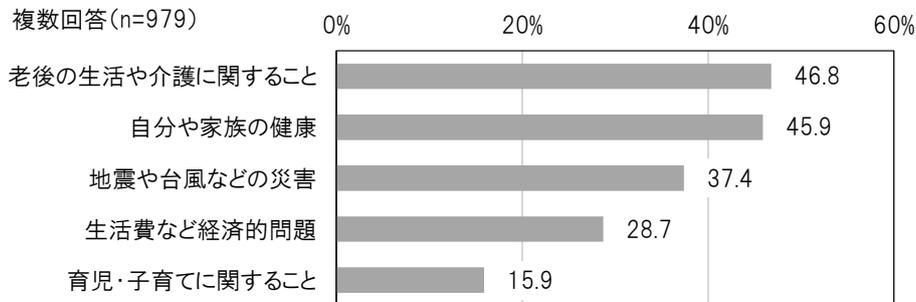
③ 回答者の居住地区(説明略)



④ 日常生活でどのような悩みや不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活でどのような悩みや不安を感じているかについてみると、全体では「老後の生活や介護に関する事」が46.8%と最も多く、次いで「自分や家族の健康」が45.9%となっています。

また、年齢別にみると、30代・40代では「生活費など経済的問題」が、30代では「育児・子育てに関する事」が、それぞれ他の年代より高くなっています。

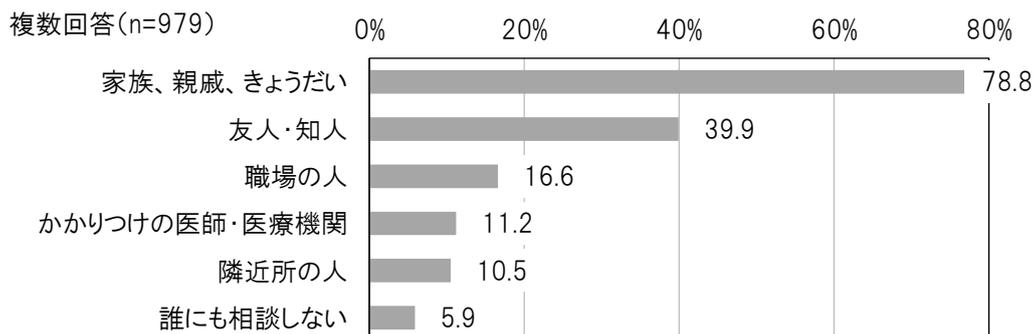


【年齢別表】

| 単位: % | | 自分や家族の健康 | と老後の生活や介護に関する事 | 育児・子育てに関する事 | 家族との人間関係 | 生活費など経済的問題 | 仕事(就労・経営等)に関する事 | 学校や職場の人間関係 | 近所づきあいに関する事 | 住まいに関する事 | 犯罪など地域の治安に関する事 | 地震や台風などの災害 | 人権問題に関する事 | 家族生活(進学・就職・結婚等) | 特に悩みはない | その他 | 無回答 |
|-----------|---------------|----------|----------------|-------------|----------|------------|-----------------|------------|-------------|----------|----------------|------------|-----------|-----------------|---------|-----|-----|
| 全体(n=979) | | 45.9 | 46.8 | 15.9 | 8.1 | 28.7 | 13.2 | 6.4 | 7.4 | 11.2 | 13.6 | 37.4 | 2.1 | 9.2 | 17.2 | 1.7 | 4.7 |
| 年齢別 | 20歳以下(n=85) | 21.2 | 16.5 | 11.8 | 3.5 | 24.7 | 20.0 | 7.1 | 1.2 | 3.5 | 4.7 | 14.1 | 1.2 | 11.8 | 36.5 | 3.5 | 4.7 |
| | 30歳代(n=174) | 39.7 | 31.0 | 44.8 | 9.2 | 41.4 | 20.1 | 13.8 | 9.8 | 12.6 | 21.3 | 27.0 | 2.3 | 11.5 | 13.2 | 2.3 | 2.9 |
| | 40歳代(n=178) | 37.6 | 42.1 | 32.0 | 12.9 | 33.7 | 18.5 | 12.9 | 9.0 | 11.8 | 16.9 | 29.8 | 2.2 | 12.9 | 16.3 | 2.2 | 5.6 |
| | 50歳代(n=73) | 57.5 | 58.9 | 5.5 | 11.0 | 27.4 | 23.3 | 5.5 | 9.6 | 12.3 | 15.1 | 45.2 | 1.4 | 13.7 | 12.3 | 2.7 | 4.1 |
| | 60~64歳(n=76) | 56.6 | 69.7 | 2.6 | 3.9 | 27.6 | 14.5 | 5.3 | 9.2 | 18.4 | 7.9 | 46.1 | 3.9 | 14.5 | 6.6 | 1.3 | 3.9 |
| | 65~74歳(n=200) | 52.0 | 52.0 | 1.5 | 6.0 | 22.0 | 5.5 | 0.5 | 6.0 | 10.5 | 11.0 | 45.0 | 1.0 | 3.5 | 15.0 | 0.5 | 5.0 |
| | 75歳以上(n=180) | 54.4 | 59.4 | 0.6 | 6.1 | 20.6 | 2.2 | 0.6 | 5.6 | 9.4 | 10.6 | 50.6 | 2.8 | 4.4 | 22.2 | 1.1 | 5.0 |

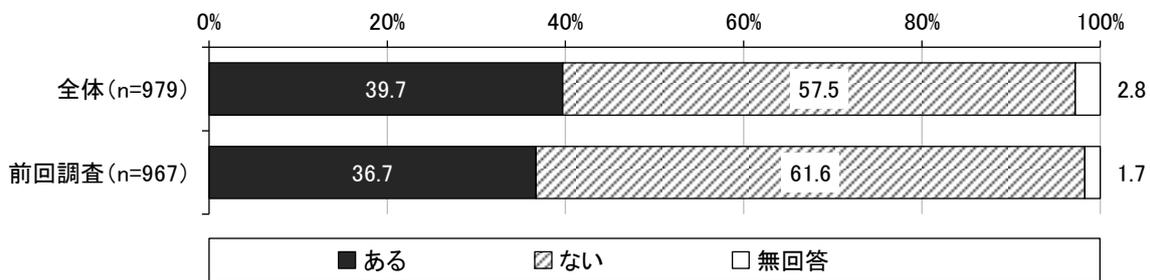
⑤ 日常生活で悩みや不安があるとき、だれに(どこに)相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや不安の相談先についてみると、「家族、親戚、きょうだい」が78.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が39.9%となっています。また、「誰にも相談しない」が5.9%となっています。



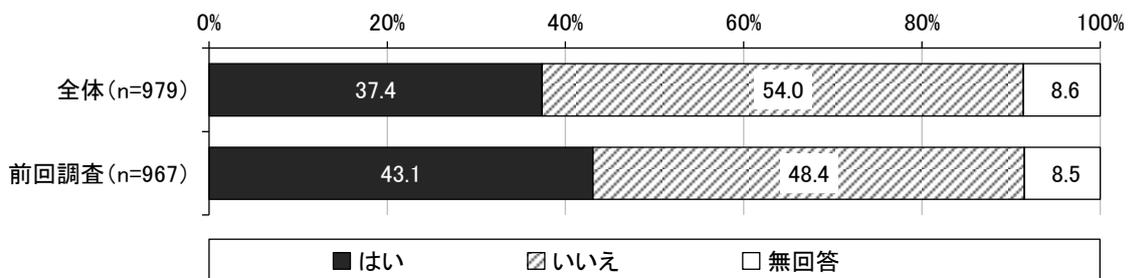
⑥ あなたは、ここ5年間に地域活動やボランティア活動をしたことがありますか。(1つに○)

ここ5年間に地域活動やボランティア活動をしたことがあるかについてみると、「ない」が57.5%、「ある」が39.7%となっています。



⑦ 今後、あなたは地域活動・ボランティア活動をしたい(続けたい)と思いますか。(1つに○)

今後、地域活動・ボランティア活動をしたい(続けたい)と思うかについてみると、「いいえ」が54.0%、「はい」が37.4%となっています。

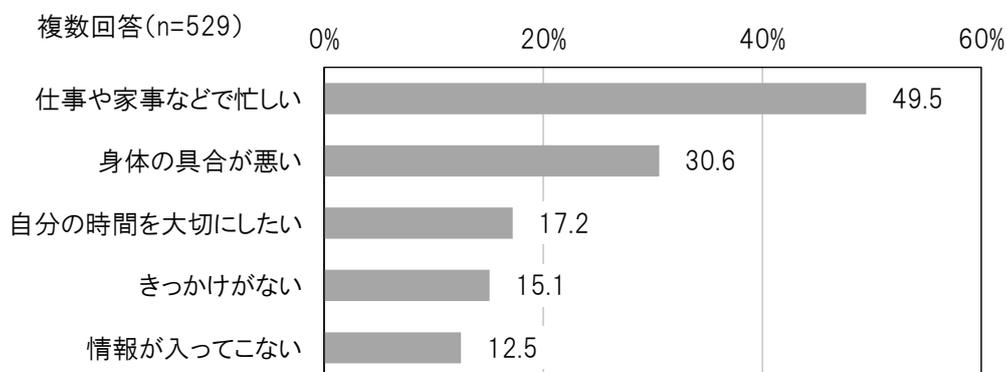


⑦ で「いいえ」を選んだ方

⑧ 地域活動・ボランティア活動をしたいと思わない理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

地域活動・ボランティア活動をしたいと思わない理由についてみると、「仕事や家事などで忙しい」が49.5%と最も多く、次いで「身体の具合が悪い」が30.6%となっています。

また、年齢別にみると、60～64歳以下の年代では「仕事や家事などで忙しい」が、65～74歳以上の年代では「身体の具合が悪い」が、それぞれ他の年代より高くなっています。



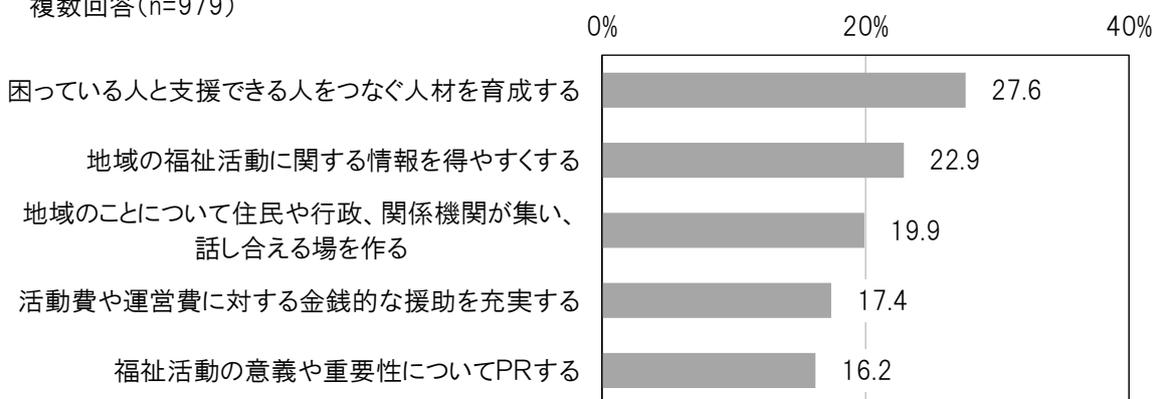
【年齢別表】

| 単位：% | | 忙しい仕事や家事などで | 知らない人がいる | 情報が入ってこない | きっかけがない | 参加方法がわからない | 自分の時間を大切にしたい | 活動内容に興味・関心がない | 身体具合が悪い | 自分の生活には関係ない | わずらわしい | 家族の理解が得られない | その他 | 特になし | 無回答 |
|-----------|---------------|-------------|----------|-----------|---------|------------|--------------|---------------|---------|-------------|--------|-------------|------|------|-----|
| 全体(n=529) | | 49.5 | 11.3 | 12.5 | 15.1 | 6.4 | 17.2 | 9.3 | 30.6 | 1.1 | 8.3 | 2.3 | 7.2 | 6.4 | 1.9 |
| 年齢別 | 20歳代以下(n=44) | 65.9 | 11.4 | 15.9 | 20.5 | 4.5 | 22.7 | 9.1 | 4.5 | 4.5 | 0.0 | 0.0 | 6.8 | 6.8 | 0.0 |
| | 30歳代(n=90) | 82.2 | 20.0 | 21.1 | 17.8 | 13.3 | 27.8 | 13.3 | 4.4 | 2.2 | 7.8 | 2.2 | 2.2 | 2.2 | 1.1 |
| | 40歳代(n=87) | 74.7 | 14.9 | 10.3 | 14.9 | 3.4 | 20.7 | 11.5 | 6.9 | 1.1 | 11.5 | 1.1 | 6.9 | 5.7 | 1.1 |
| | 50歳代(n=37) | 67.6 | 10.8 | 13.5 | 18.9 | 5.4 | 24.3 | 8.1 | 24.3 | 0.0 | 10.8 | 2.7 | 5.4 | 0.0 | 2.7 |
| | 60～64歳(n=38) | 63.2 | 15.8 | 13.2 | 18.4 | 2.6 | 5.3 | 13.2 | 26.3 | 2.6 | 13.2 | 0.0 | 7.9 | 10.5 | 0.0 |
| | 65～74歳(n=115) | 31.3 | 7.8 | 11.3 | 13.0 | 7.8 | 15.7 | 8.7 | 46.1 | 0.0 | 9.6 | 4.3 | 3.5 | 11.3 | 0.9 |
| | 75歳以上(n=117) | 7.7 | 4.3 | 6.8 | 11.1 | 4.3 | 7.7 | 4.3 | 66.7 | 0.0 | 6.0 | 2.6 | 15.4 | 6.0 | 4.3 |

⑨ 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発にしていきたいためには、どのようなことが重要だと思いますか。(主なものを3つまでに○)

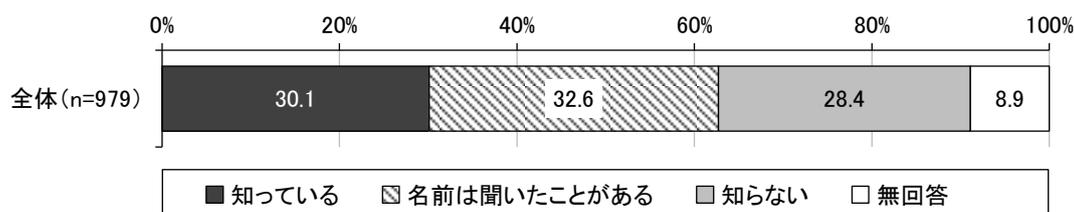
今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発にしていきたいために重要だと思うことについてみると、「困っている人と支援できる人をつなぐ人材を育成する」が27.6%と最も多く、次いで「地域の福祉活動に関する情報を得やすくする」が22.9%となっています。

複数回答(n=979)



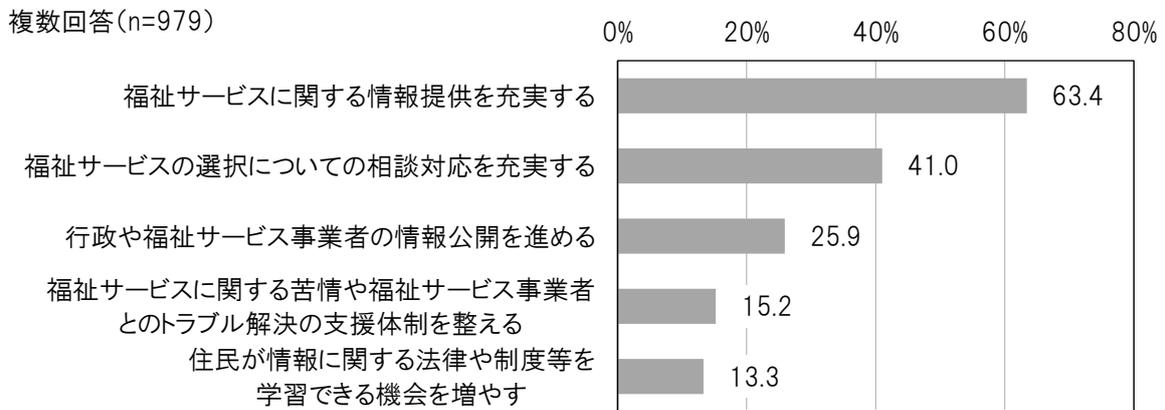
⑩ 社会福祉協議会の存在や活動を知っていますか。(1つに○)

「社会福祉協議会」をどのくらい知っているかについてみると、「名前は聞いたことがある」が32.6%と最も多く、次いで「知っている」が30.1%となっています。



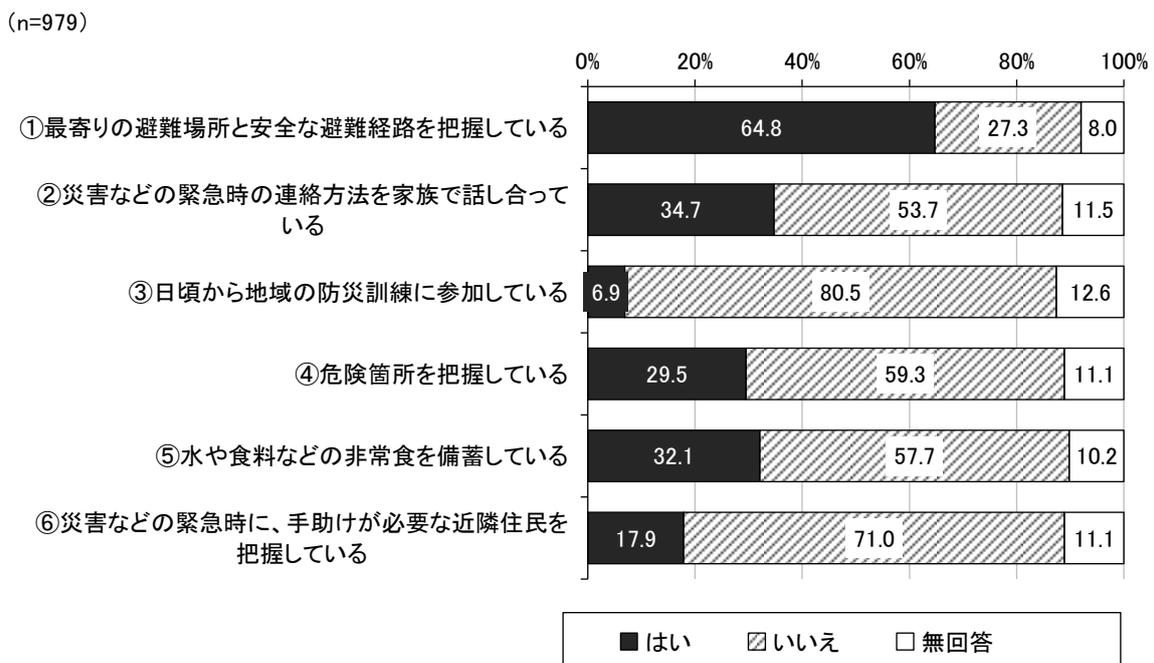
⑪ 福祉サービス利用者が、自分に最適な「福祉サービス」を選び、安心して利用するために市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(主なもの3つまでに○)

自分に最適な「福祉サービス」を選び、安心して利用するために市が取り組む必要があることについてみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が63.4%と最も多く、次いで「福祉サービスの選択についての相談対応を充実する」が41.0%となっています。



⑫ あなたは、地震や台風等の災害への備えとして、以下のようなことに取り組んでいますか。(それぞれ1つだけ○)

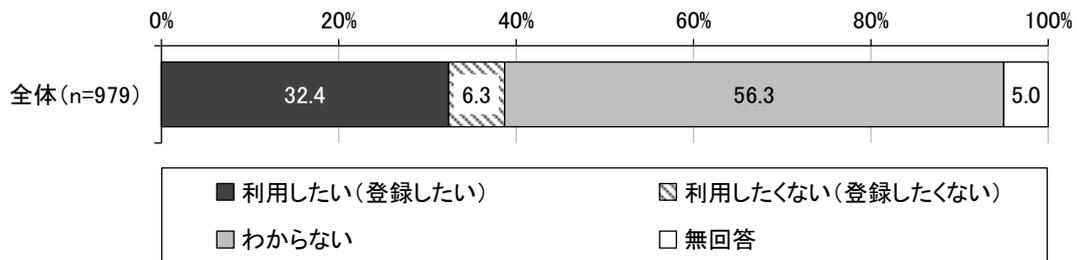
地震や台風等の災害への備えについてみると、「はい」が「①最寄りの避難場所と安全な避難経路を把握している」で64.8%と最も多くなっています。次いで「②災害などの緊急時の連絡方法を家族で話し合っている」(34.7%)、「⑤水や食料などの非常食を備蓄している」(32.1%)となっています。また、「③日頃から地域の防災訓練に参加している」が6.9%と少なくなっています。



⑬ 災害時に避難誘導などの支援を受けるための登録制度があれば、利用したいと思いますか。(1つに〇)

災害時に避難誘導などの支援を受けるための登録制度があれば、利用したいと思うかについてみると、「わからない」が56.3%と最も多く、次いで「利用したい(登録したい)」が32.4%となっています。

また、年齢別にみると、75歳以上では「利用したい(登録したい)」が他の年代より高くなっています。

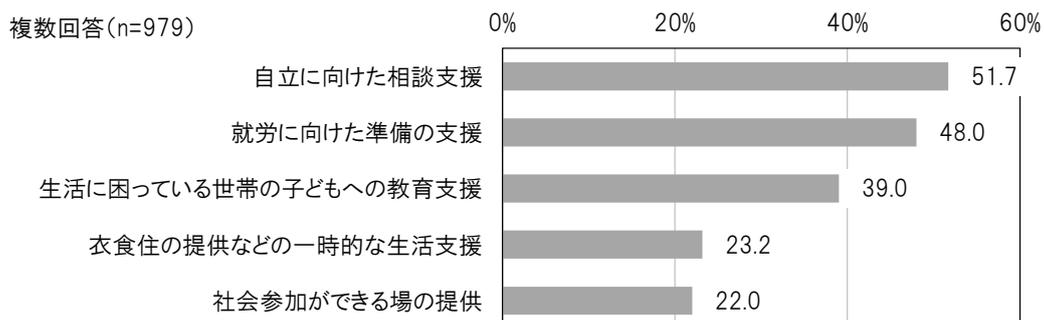


【年齢別表】

| 単位: % | | 利用したい(登録したい) | 利用したくない(登録したくない) | わからない | 無回答 |
|------------|----------------|--------------|------------------|-------|------|
| 全体 (n=979) | | 32.4 | 6.3 | 56.3 | 5.0 |
| 年齢別 | 20歳代以下 (n=85) | 31.8 | 3.5 | 63.5 | 1.2 |
| | 30歳代 (n=174) | 35.6 | 4.0 | 59.2 | 1.1 |
| | 40歳代 (n=178) | 27.0 | 6.2 | 62.4 | 4.5 |
| | 50歳代 (n=73) | 27.4 | 6.8 | 61.6 | 4.1 |
| | 60~64歳 (n=76) | 23.7 | 11.8 | 63.2 | 1.3 |
| | 65~74歳 (n=200) | 32.5 | 9.0 | 55.5 | 3.0 |
| | 75歳以上 (n=180) | 40.6 | 5.0 | 40.6 | 13.9 |

⑭ あなたは、生活困窮者に対して、どのような支援が必要だと思いますか。(主なものを3つまでに〇)

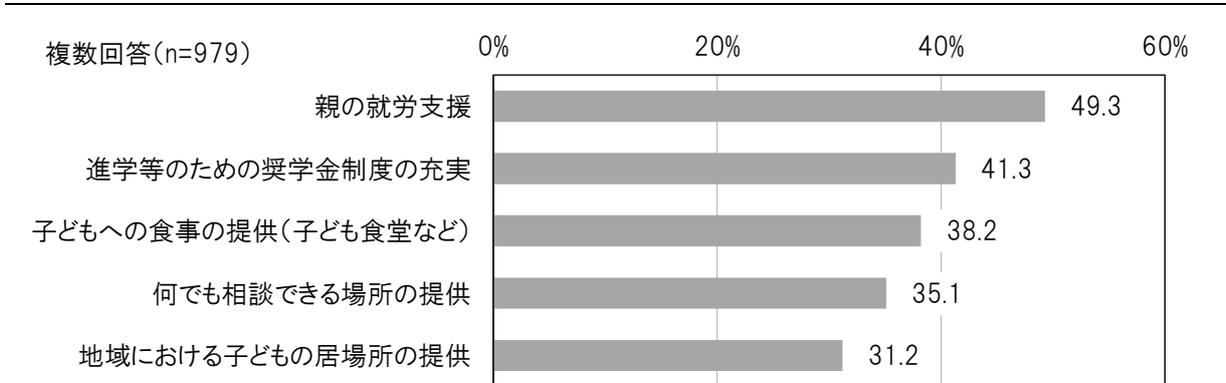
生活困窮者に対して、どのような支援が必要だと思うかについてみると、「自立に向けた相談支援」が51.7%と最も多く、次いで「就労に向けた準備の支援」が48.0%となっています。



⑮ 子どもの貧困が社会問題となっていますが、どのような支援が必要だと思いますか。

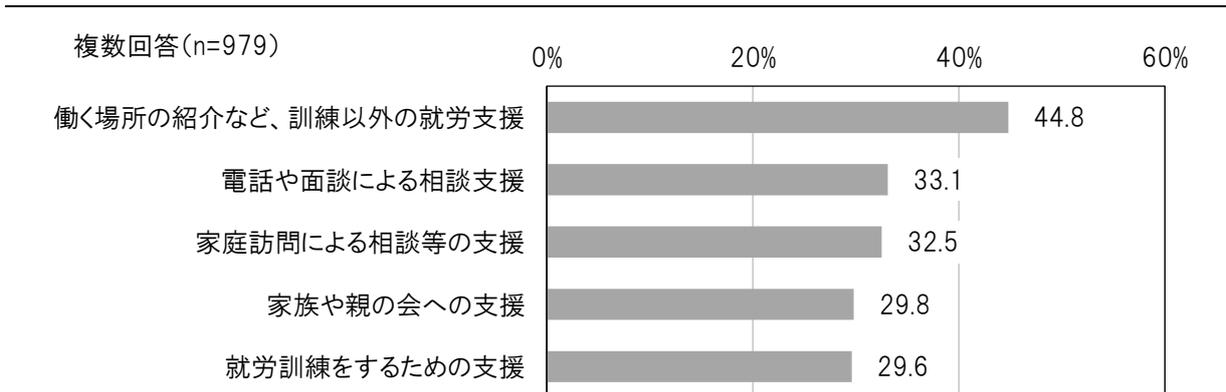
(主なもの3つまでに○)

子どもの貧困に関する問題でどのような支援が必要だと思うかについてみると、「親の就労支援」が49.3%と最も多く、次いで「進学等のための奨学金制度の充実」が41.3%となっています。



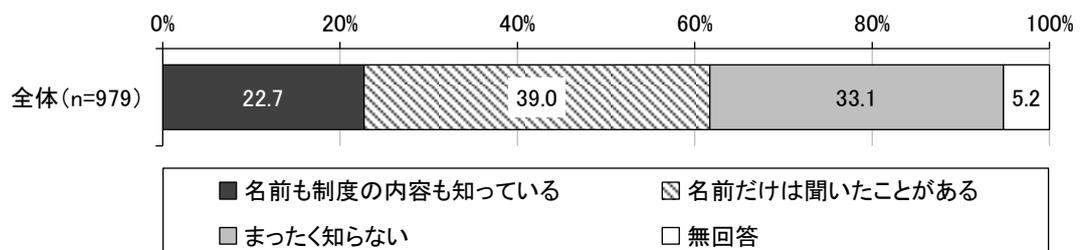
⑯ ひきこもり当事者また家族に対して、どのような支援が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

ひきこもり当事者また家族に対して、どのような支援が必要だと思うかについてみると、「働く場所の紹介など、訓練以外の就労支援」が44.8%と最も多く、次いで「電話や面談による相談支援」が33.1%となっています。



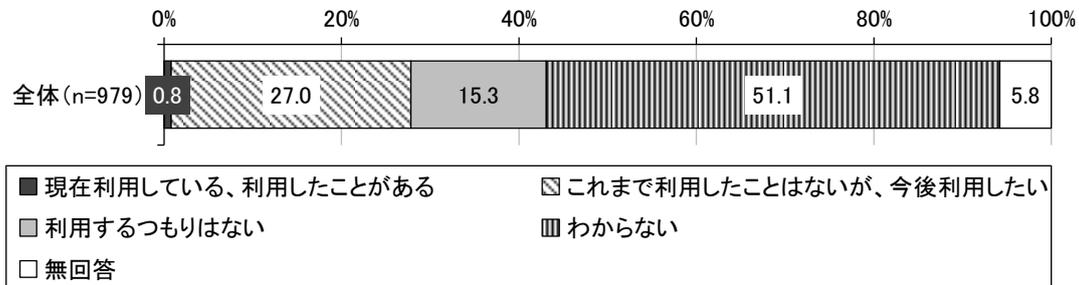
⑰ あなたは「成年後見制度」についてどのくらい知っていますか。(1つに○)

「成年後見制度」をどのくらい知っているかについてみると、「名前だけは聞いたことがある」が39.0%と最も多く、次いで「まったく知らない」が33.1%となっています。



⑱ 今後あなたやあなたの家族が認知症などにより判断する力が衰えたとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

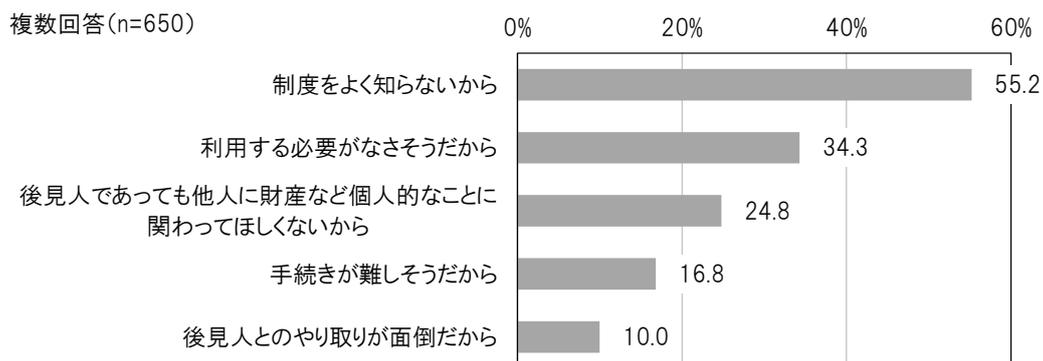
「成年後見制度」を利用したいかどうかについてみると、「わからない」が51.1%と最も多く、次いで「これまで利用したことはないが、今後利用したい」が27.0%となっています。



⑱ で「利用するつもりはない」「わからない」を選んだ方

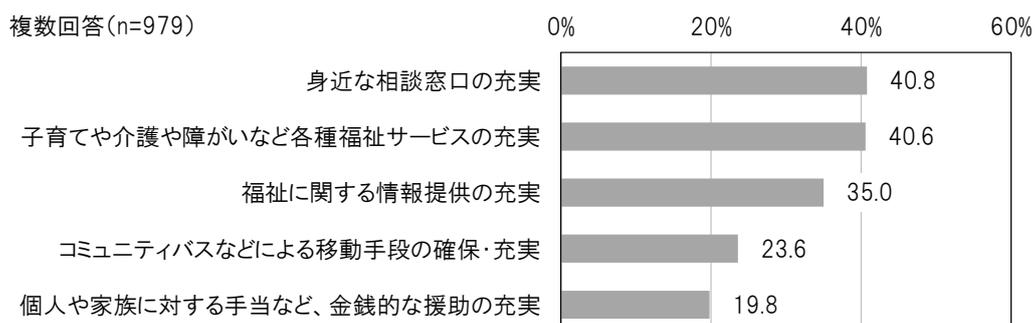
⑲ 上記の回答を選んだ理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

成年後見制度を利用するつもりはない、またはわからないとした理由についてみると、「制度をよく知らないから」が55.2%と最も多く、次いで「利用する必要がなさそうだから」が34.3%となっています。



⑳ 今後、地域福祉の充実のために市が積極的に取り組むべきことは何だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

地域福祉の充実のために市が積極的に取り組むべきことについてみると、「身近な相談窓口の充実」が40.8%と最も多く、次いで「子育てや介護や障がいなど各種福祉サービスの充実」が40.6%となっています。



(2) 団体ヒアリング調査結果より

1. 調査の目的

地域で活動する団体に対し、地域活動の状況や活動を通じて感じる地域の課題、また今後の活動の方向性や連携意向等を伺うことで、施策検討における資料として活用することを目的に実施しました。

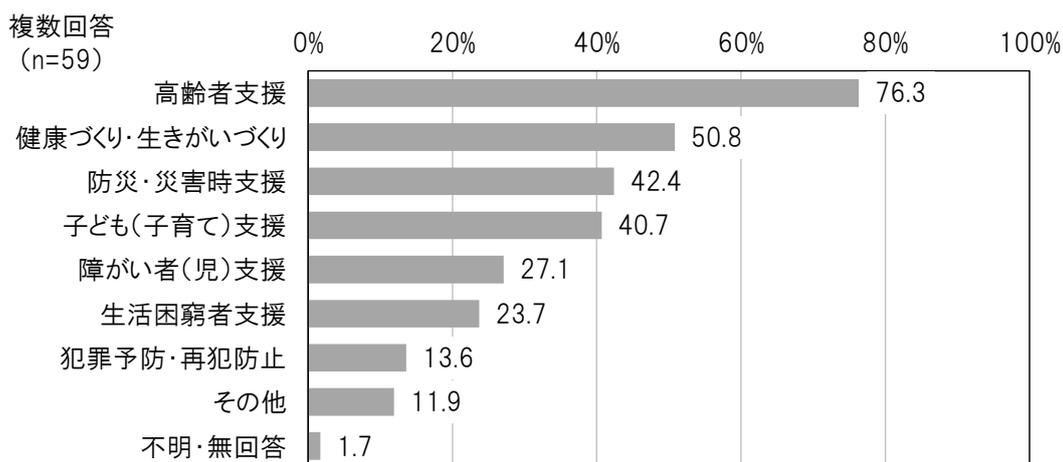
2. 調査の概要

- ◇調査対象者 : 柳川市内で活動を実施している福祉関係団体 (75 団体)
- ◇調査時期 : 令和4年4~5月
- ◇調査方法 : 郵送による配布・回収およびデータ (メール) による配布・回収

3. 調査結果

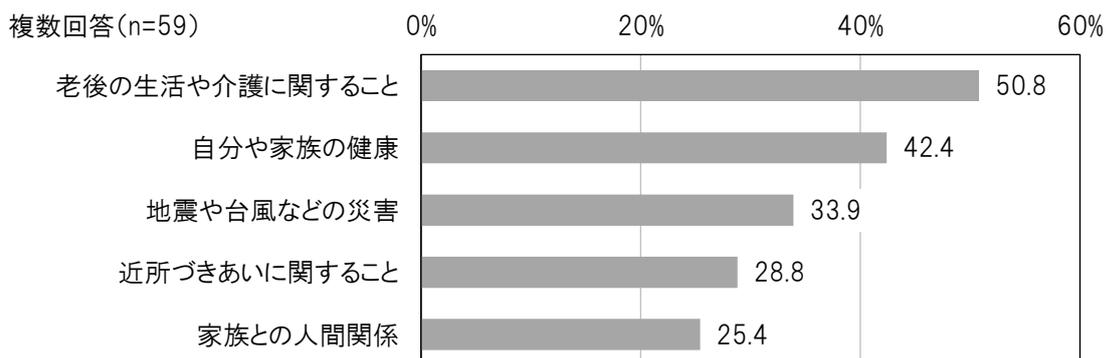
① 貴団体の活動の分野は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

団体の活動分野についてみると、「高齢者支援」が76.3%と最も多く、次いで「健康づくり・生きがいつくり」が50.8%、「防災・災害時支援」が42.4%となっています。



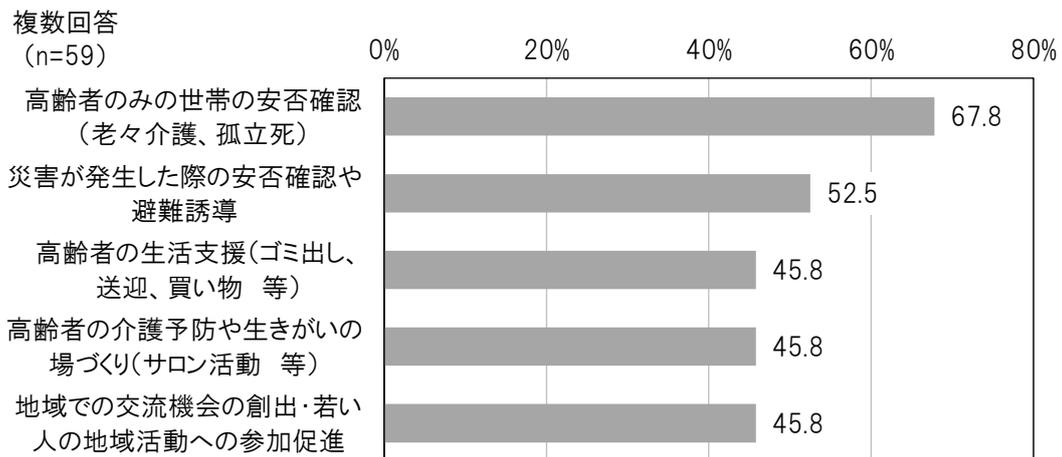
② 普段の活動の中で、地域の人からどのような悩みや困りごとの相談がありますか。(あてはまるものすべてに○)

普段の活動の中で地域の人からどのような悩みや困りごとの相談があるかについてみると、「老後の生活や介護に関すること」が50.8%と最も多く、次いで「自分や家族の健康」が42.4%、「地震や台風などの災害」が33.9%となっています。



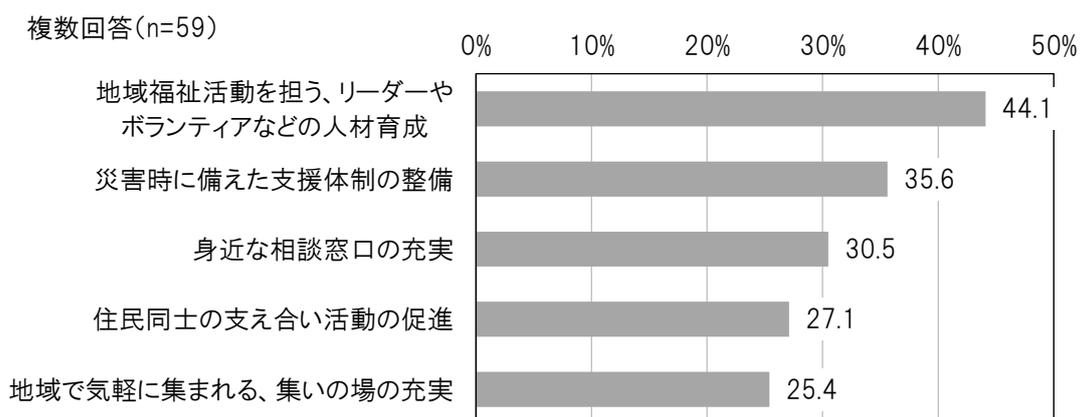
③ 普段の活動の中で感じる解決しなければならない地域課題はどのようなものがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

普段の活動の中で、地域にあると思う課題についてみると、「高齢者のみの世帯の安否確認（老々介護、孤立死）」が67.8%と最も多く、次いで「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が52.5%、「高齢者の生活支援（ゴミ出し、送迎、買い物 等）」「高齢者の介護予防や生きがいの場づくり（サロン活動 等）」「地域での交流機会の創出・若い人の地域活動への参加促進」が45.8%となっています。



④ 今後、柳川市の地域福祉の充実のため、重点的に取り組むべきことは何だと思いませんか。
 (主なもの3つまでに○)

今後、地域福祉の充実のために重点的に取り組むべきと思うことについてみると、「地域福祉活動を担う、リーダーやボランティアなどの人材育成」が44.1%と最も多く、次いで「災害時に備えた支援体制の整備」が35.6%、「身近な相談窓口の充実」が30.5%となっています。



(3) 地域座談会より

1. 実施目的と参加者について

普段の暮らしの中で感じていること（福祉に関する現状や課題）や、今後の地域づくりへの思いまたアイデアについて、市民の生の声を聴取し、現状や課題の把握また施策検討における資料として活用することを目的に実施しました。

また、参加者については、若者（20代）、子育て世代、現役世代、高齢者まで幅広い年齢の方に来ていただけるよう、柳川市社会福祉協議会と柳川市より呼びかけを行いました。

2. 開催日時・参加人数・会場について

中学校区ごとに各1回の計6回開催し、合計121名に参加いただきました。

詳細は、以下の通りです。

| 対象中学校区 | 開催日時 | 参加人数 | 会場 |
|--------|--------------|------|------------------------------|
| 柳城中学校区 | 令和4年6月18日（土） | 20名 | 柳川総合保健福祉センター 水の郷 視聴覚室（2階） |
| 柳南中学校区 | 令和4年6月18日（土） | 24名 | |
| 昭代中学校区 | 令和4年6月19日（日） | 18名 | |
| 蒲池中学校区 | 令和4年6月19日（日） | 21名 | |
| 大和中学校区 | 令和4年6月26日（日） | 20名 | 柳川市豊原コミュニティセンター 大会議室 |
| 三橋中学校区 | 令和4年6月26日（日） | 18名 | 柳川市三橋生涯学習センター 講義室（1階） |

3. テーマについて

テーマについて、以下のように設定しました。

テーマ①：わたしたちの地域の理想像と、地域の今（現状）

- ・地域の理想像について自由に思い描くとともに、理想に対する現状（ギャップ）についても意見を出し合いました。

テーマ②：これから5年間、わたしたちにできそうなこと

- ・①で出た理想像に近づくために、今後5年間地域でできそうなこと、取り組んでいきたいことについて、意見を出し合いました。

4. 進め方について

それぞれのテーマについて、まず5分程度各自で考え付箋に意見を書き出したのち、それぞれに発表いただきました。その後、ファシリテーターが付箋を模造紙に貼りだし、似た内容の意見についてはグループ分けを行いました。（進行役およびその補助として、各テーブルにファシリテーター1名、補助1名を配置しました。）

5. 実施結果

テーマ①:わたしたちの地域の理想像と、地域の今(現状)

【総論】

- 理想像で最も多くあげられたのは「子ども」に関連する理想像です。「子どもがのびのびと暮らせる地域である」「子どもの遊び場がある」といった内容や、「子どもと高齢者含む地域の大人との交流が盛んである」といった内容が非常に多くあげられました。
- 子どもの次に多かったのが「高齢者」に関する理想像です。「高齢者が安心して暮らせる地域であること」「高齢者が、子どもや若い世代と交流できること」といった内容が多くあげられました。
- 現状（理想像とのギャップ）について、最も多くあげられたのは「子ども」に関連する意見です。「子どもが少ない」「子どもが集う場や遊ぶ場が少ない」といった意見や、「(コロナの影響もあり) 子ども会などの行事が減っている」といった意見が多くあげられました。
- 子どもの次に多かったのが「高齢者」に関する意見です。「地域の高齢化が進んでいる」といった意見が多くあげられ、ほかにも「高齢者の集まりや、異世代との交流の機会が少ない」といった意見や、「(コロナの影響もあり) 高齢者の閉じこもりや孤立が見受けられる」といった意見があげられました。

【座談会で出た意見について（※主なものを抜粋して掲載）】

| 区分 | | 内容 |
|------------|----|--|
| 見守り・交流 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいがある ・ふれあいがあり、助け合える ・声かけやあいさつが活発 ・子どもと高齢者や地域の大人など、世代を越えた交流が盛ん |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・近所にどんな人が住んでいるかわからない（近所付き合いがない） ・地域や他人とのふれあい・関わりを望まない人がいる ・あいさつなどを含め地域でのコミュニケーションやつながりが希薄化している |
| 地域活動、連携・協働 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域内で笑い声が聞こえるような楽しいコミュニティがある ・地域の活動に積極的に参加してくれる人が増えてほしい ・子ども会や公民館活動が活発 |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の役職・委員等の担い手がいない ・地域の役職を務めている人に負担が集中しすぎている ・若者や高齢者の地域活動や行事等への参加が減っている |
| 子ども・子育て | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが元気で、のびのびと暮らせる ・子どもの遊び場がある ・障がいを持っている子どももみんなと一緒に成長出来る |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進み、地域に子どもが少ない ・子ども会など、子どもと一緒にやる行事が減っている ・(昔のように) 地域の大人が子どもを叱ってよいかわからない |

| 区分 | | 内容 |
|----------------|----|--|
| 若者、雇用 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が住み続けたいとなる ・若者が求める仕事ができる企業がある ・高齢者と若年層がふれあえる |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・若者が減少している、市外に出て行ってしまふ ・若者の求める働き口がなく、よそに出て行く |
| 高齢者、障がい者支援 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・（買い物や移動といった日常生活、防犯・防災含めて）高齢者が安心して暮らせる ・高齢者が、子どもや若い世代と交流できる ・障がいのある方も一緒にふれあえる環境がある ・生涯、生きがいを持って暮らせる |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集まりや、若い世代や子どもとの交流の機会が少ない ・高齢者の閉じこもりや孤立が見受けられる ・サロン活動に男性の高齢者の参加が少ない ・障がいがある人の事を地域で把握できていない |
| 移住・定住 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が住み続けたいとなる ・子どもたちがずっと住み続けたいと思える |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が市外に出ていく ・人口が減少している |
| 自然・住環境 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・清潔感のあるクリーンなまち ・道路と歩道に草（雑草）が生えない、ゴミのポイ捨てもないまち |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・掘割がにごったり、草が茂ったりしている ・歩道の整備がなされていない |
| 防災・防犯・空き家対策 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害の時に助け合える ・事故や災害や犯罪がなく安心して暮らせる ・空き家なくなる、減る |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・水害（浸水）をはじめ災害への不安がある ・空き家が増加している |
| 交通・移動手段、買い物・医療 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢になっても外出できる交通手段がある ・安心して出歩ける（歩道が整備されている） ・買い物に困る人がいない ・地域の病院・医院にかかれる。自分の足で行ける |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・車がない高齢者等はタクシーを使わないと移動できないことが多い ・コミュニティバスを使うにも、バス停までいけない人も多い ・一人暮らしの高齢者が買い物や病院に行くのに困っている |
| 行事、伝統 | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・20歳～50歳代の若い人も地域の行事に参加している ・神社の祭りに大人や子どもたちが楽しく参加できる |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い人が家と仕事の事ばかりで、地域行事に参加できない ・昔からの伝統行事しかイベントがなく、機会も少ない |
| 孤立・ひきこもり | 理想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしでも寂しくない、孤独死する人がいない ・ひきこもりの人等いろいろな人が集える場がある |
| | 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域にひきこもり・閉じこもりの状態の人がいる ・地域での助け合いが希薄になり、孤独な人がいる |

テーマ②:これから5年間、わたしたちにできそうなこと

【総論】

- 地域でできそうなことについて、すべての校区を通じて最も多くあげられたのは「子ども」に関する意見です。「子どもへの声かけや見守りを行う」といった意見が最も多くあげられ、「子どもと交流する行事の開催」や「子どもたちの集いの場づくり」といった意見も多くあげられました。また、「子ども食堂やフードバンクの設立」といった意見もあげられました。
- 次いで多かったのが「行事」に関する意見です。「地域の行事に自ら参加する」といった意見が多くあげられ、そのほかにも「若者に参加を呼びかける」や「魅力的な行事の企画・運営」といった意見も複数あげられました。
- 他にも、高齢者の見守りに関する意見や、公民館の活用の推進に関する意見、また「(困っている人がいたら) 区長や民生委員、市や社協に相談する」といった「つなぎ役」に関する意見も複数あげられました。

【座談会で出た意見について (※主なものを抜粋して掲載)】

| 区分 | 内容 |
|------------|---|
| 見守り・交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域内で多様な団体や世代との交流を促進する ・子どもや高齢者を地域の中で見守る ・子どもや高齢者を含めた地域住民の集いの場の設置やイベントの開催 ・(困っている人がいたら) 区長や民生委員、市や社協に相談する ・民生委員だけに頼らずに、協力できる人は協力していく ・子どもから高齢者まで参加できるスポーツ(例:ペタンク)を交流の場、イベントとして実施する |
| 地域活動、連携・協働 | <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を子どもたちの溜まり場として開放する ・子どもとお年寄りの交流の場として公民館を活用し、昔遊びなどを行う ・子どもや高齢者が参加しやすい行事や活動を企画する ・魅力的な公民館行事を企画・運営する ・若い人も参加しやすいように、集まりを夕方以降にする ・地域の役職や役割を個人に集中させずに、分散させる |
| 子ども・子育て | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時を中心に子どもたちへの声かけや見守りを行う ・子どもたちの集いの場の創出・確保 ・子ども食堂やフードバンクの設立 ・子ども会活動による子どもたちの集いの場の確保 |
| 若者、雇用 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が相談できる場所を紹介する ・地域で雇用を創出する |
| 高齢者、障がい者支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・デイケアサロンのような高齢者の集まる場所を立ちあげる(行政区で) ・地域の公民館で高齢者の健康教室を開く ・高齢者宅の電球替えなどを手伝う |
| 移住・定住 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに地元を好きになってもらえるような働きかけをする |

| 区分 | 内容 |
|-------------|---|
| 自然・住環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域での美化活動を日常的に行う ・家の周りをきれいにする |
| 防災・防犯・空き家対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている、地域の子どもたちの安全見守りを継続していく ・災害時に本当に困っている人に助けがいくように、自分たちが避難準備をしておく ・避難時に支援が必要な方を把握し、支援方法を決めておく ・事故が多い場所などは地域で情報共有する |
| 交通・移動手段 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体で行っているデマンド交通が柳川で実現できるか考える ・車いすの方への声かけ、乗降時の手伝いをする |
| 買い物・医療 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業者（スーパーや生協等）に移動販売への協力をお願いする ・ゴミ出しや買い物を隣近所で助け合う ・地元病院と在宅医療について話す機会を設ける |
| 行事、伝統 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に自ら参加するとともに、若者への参加を呼びかける ・行事に参加しない方がどうしたら参加できるかを検討し、参加してもらえるように声かけをしていく ・地区の行事（子ども会や夏まつりなど）を少しずつ再開する |
| 孤立・ひきこもり | <ul style="list-style-type: none"> ・サロンやフリースペースなどの居場所づくりを行う ・寄合活動やサロンに誘い、孤立を防ぐ |



3 本市の福祉課題について

(1) 課題のまとめ

課題1 情報発信の充実

支援が必要な市民がきちんと支援に繋がるための第一歩が、相談等の福祉サービスの「情報」につながることで、柳川市では広報やながわや柳川市公式ホームページを中心に福祉サービス等の情報提供を行ってきました。ただ、各種調査結果をみると、依然として情報提供のニーズが高く、特に成年後見制度等については市民意識調査から「制度を良く知らないから、利用するかどうか考えられない」といった回答が多数見受けられました。

また、災害時要援護者支援制度についても、75歳以上では利用の潜在的ニーズが高いことがわかれ、サービスを利用したい人が適切にサービスに繋がるための第一歩としての情報発信の充実が求められます。



〈各種調査結果より〉

- 地域における支え合い・助け合いを活発にしていくためには「活動に関する情報を得やすくする」ことが必要です。
- 市民が安心して福祉サービスを利用するためにも「サービスに関する情報提供を充実する」ことが求められます。

課題2 アウトリーチを含めた相談支援の充実

支援が必要な人たちの中には、「支援が必要だという認識が無い」「支援を受ける方法が分からない」という方も一定数いることが見込まれます。そういった方が不登校やひきこもりになるケースもあり、学校や地域と連携しながらアウトリーチを含めた相談支援を展開することが求められます。また、障がい児や医療的ケア児の保護者や、在宅介護の介助者等は、外出はもちろん、電話での相談も予定を立てて行うことが難しい場合もあり、こういった方たちを相談支援に繋げるためには、LINE等のSNSを活用した相談支援など、利用者の視点に立ち相談へのハードルを下げ、支援を受けやすくすることが求められます。

また、さまざまな悩みや困難、生きづらさを抱える人たちが一人で悩み孤独に陥ることが無いよう、当事者同士のつながりづくりや、ピアカウンセリングの促進等に着手することも求められます。



〈各種調査結果より〉

- 地域福祉の充実に向けて「市が身近な相談窓口の充実に取り組む」ことが求められています。また、福祉サービスの利用についても、「福祉サービスの選択に関する相談対応を充実する」ことが求められています。

課題3 見守り活動の促進

高齢者のひとり暮らし世帯や高齢者の夫婦のみ世帯をはじめとして、見守りが必要な人が増加しています。また、精神障がいや知的障がいなどのハンディキャップを持った人も増加しています。

市民意識調査でも地域にあると思う課題については、「高齢者のみの世帯の安否確認」「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が上位になっています。

一方で、住民同士の見守りや互助を推進するにも、住民が「支援が必要な人の情報が得られない」状況では、地域で支援する力があっても支援に繋げることができません。

今後の見守りや互助の推進に向けては、日頃の見守りや災害時の避難支援等が必要な人の情報を地域で把握・共有し支える取り組みが重要になります。具体的には、地域での支援が特に重要な災害時の初動について、災害時要援護者名簿への登録や、個人情報保護にも配慮しながら地域で情報共有を行うなど、見守り・助け合い活動を支援する取り組みが求められます。



〈各種調査結果より〉

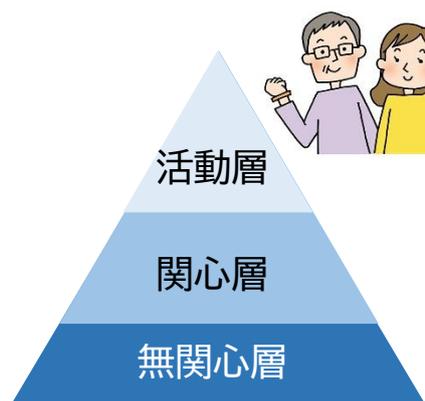
- 郵便受けに郵便物がたまっている、同じ洗濯物が何日も干されているなど、普段とちがう様子に気づけるよう、日頃からの見守り活動が求められます。
- 災害時に避難支援が必要な人をあらかじめ地域で把握し、支援方法を決めておくなどの取り組みが求められます。

課題4 地域や地域活動への興味・関心の喚起、参画の促進

前述のように見守りが必要な人が増加し続けています。一方で、今まで地域活動や見守りの中心的役割を担っていた前期高齢者（65歳～74歳）は令和2年をピークに減少することが見込まれており、今後の地域福祉の維持・充実のためには、世代や役職にとらわれず地域の誰もが自分でできる役割や生きがいを持って地域で活躍することが求められます。

下の図は、地域や地域活動への興味・関心、参画の構造をピラミッドで表したのですが、今後は「無関心層」を減らし「関心層」にする取り組み、「関心層」を「活動層」に引き上げる取り組みが求められるところであり、情報発信や多様な参加の入口の提示など、興味の裾野を広げる取り組みや、興味を持った人が活動に結びつくための取り組みが求められます。

■ 地域や地域活動への興味・関心、参画の構造（ピラミッド）



〈各種調査結果より〉

- 地域活動・ボランティアについて「参加が難しい」という回答の理由は、64歳以下では「仕事や家事などで忙しい」が上位になっており、そういった方が「どうやったら参加出来るか(参加したくなるか)」の検討等が求められます。

課題5 集いの場やコミュニティの充実

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、サロン等の地域での集まりや行事の開催が制限され、地域の従来のつながりやコミュニケーションが希薄化しています。

また、感染を恐れてのサービスの利用控えや閉じこもりも見受けられ、高齢者を中心に孤立・孤独の加速が懸念されています。今後も、数年は新型コロナウイルスによる活動制限が完全になくなることは難しいことも想定されますが、そのような中でも人と人がつながること、小地域福祉活動と呼ばれる身近な地域での活動を支援していくことが求められます。

また、地域座談会では集いや交流の場の活性化、特に子どもと高齢者等の異世代交流の促進を望む声が多く上げられ、本市としてもこのような市民主体の活動への支援が求められます。



〈各種調査結果より〉

○コロナの影響もあり、高齢者の閉じこもりや孤立が見受けられます。

○地域のサロン活動は、男性の高齢者の参加が少ないようです。男性の高齢者含めて、よりみんなが参加しやすいようなサロン活動の企画や、ひきこもりの人なども含めていろんな人が集えるフリースペースなどの居場所づくりが求められます。

